

SWCCグループ

2021年3月期 第1四半期
決算説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

Sep 11, 2020

<https://www.swcc.co.jp>



本日の説明項目

**1. 2021/3期 第1四半期
通期業績計画**

2. 2021/3期の取り組み

3. 中期経営計画KPI



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

<https://www.swcc.co.jp>

SWCCグループ

2021/3期 第1四半期報告
通期業績計画



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）



<https://www.swcc.co.jp>

2021/3期 第1四半期決算総括

業績：コロナ禍の影響を受け、前年同期比で減収・減益

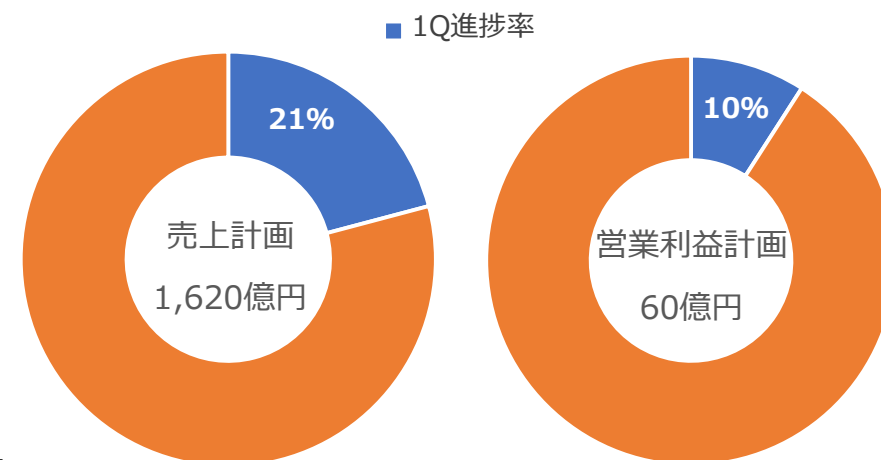
- ・エネルギー・インフラ事業は、建設関連向けにおいてコロナ禍による建設工事延期等に伴い、減収・減益。
- ・通信・産業用デバイス事業は、データセンター向け通信ケーブル等は堅調に推移したものの、建設関連向けケーブル、複写機用部品が減少し、減収・減益。
- ・電装・コンポーネンツ事業は、自動車生産台数減少、電気機械向け需要低迷により、減収・減益。

＊新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、柔軟な生産調整や不要不急経費の削減等を実施。

1Q進捗率（売上高/営業利益）

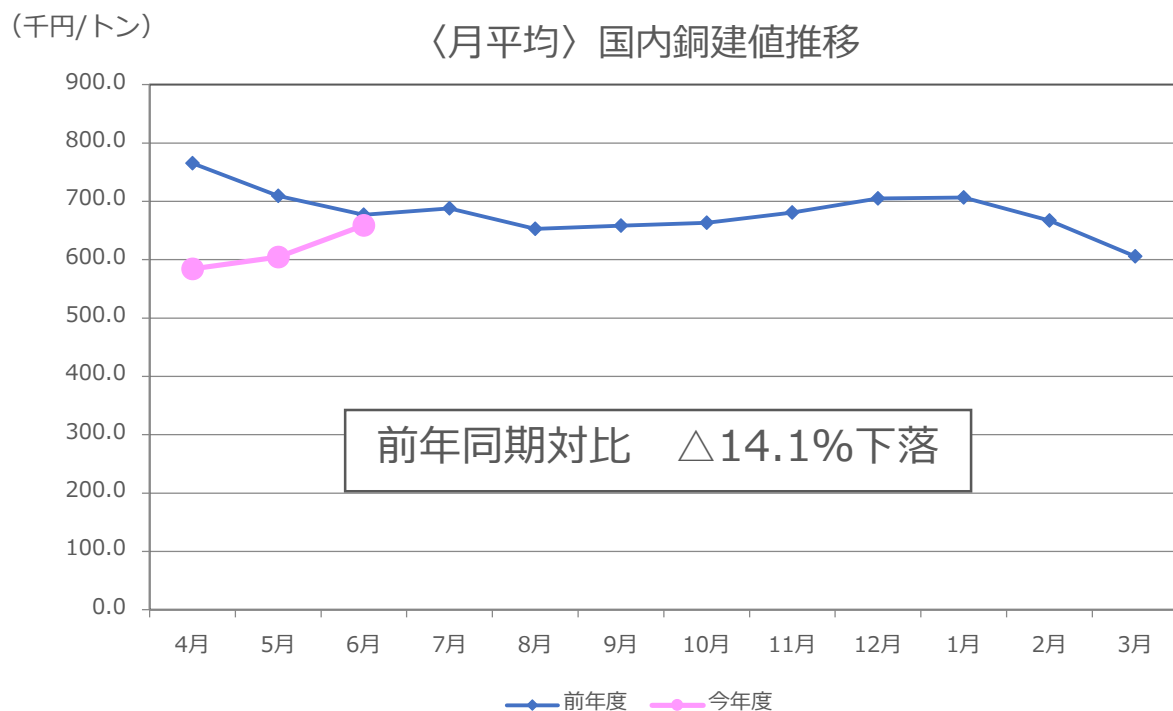
今期方針：

- ①コーポレートと事業セグメントが一体となり、柔軟性やスピード感ある判断と施策の実施
- ②業務革新による基盤事業の収益力強化
- ③ROIC経営の考え方の浸透、資本コストを意識した事業改革の推進強化
- ④新規事業の立上げの取り組みを堅持、発展の道筋をつける

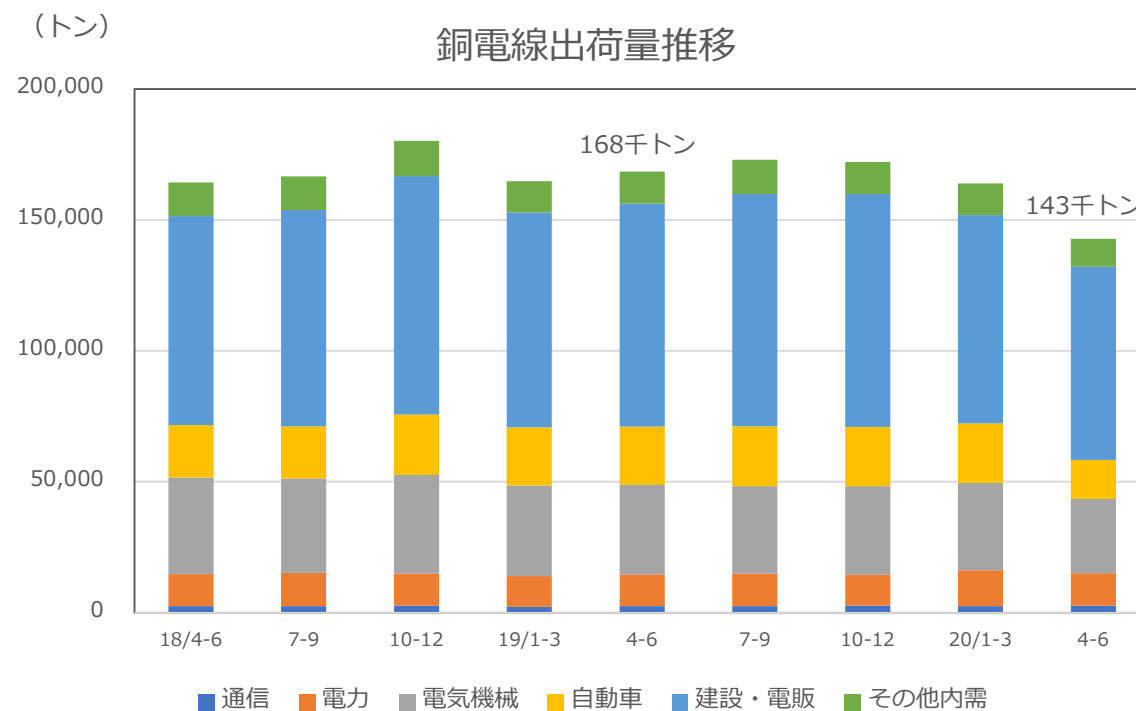


マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は、中国の景気回復もあり足元は上昇傾向。
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に大きく減少。（前年同期比△16%）



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

1Q 連結損益計算書（前年同期比）

- 売上高は前年同期比△21.4%、営業利益は△62.7%。
コロナ禍の影響による急激な需要減により減収・減益、2Q以降回復へ。

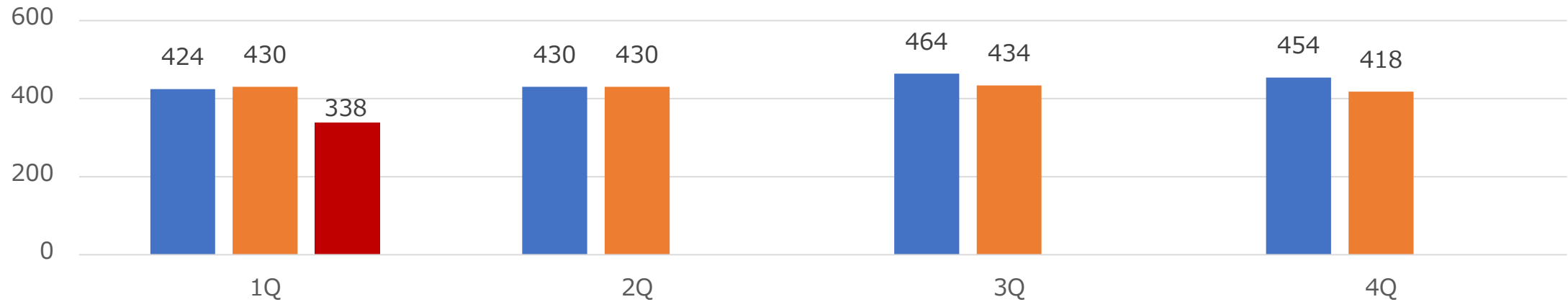
(単位：億円)	2019年度 1Q実績	構成 %	2020年度 1Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	430	—	338	—	△21.4%
売上総利益	54	12.5%	41	12.1%	△24.2%
営業利益	17	3.9%	6	1.8%	△62.7%
経常利益	15	3.5%	6	1.7%	△62.2%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	11	2.6%	4	1.2%	△64.6%

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の売上高推移

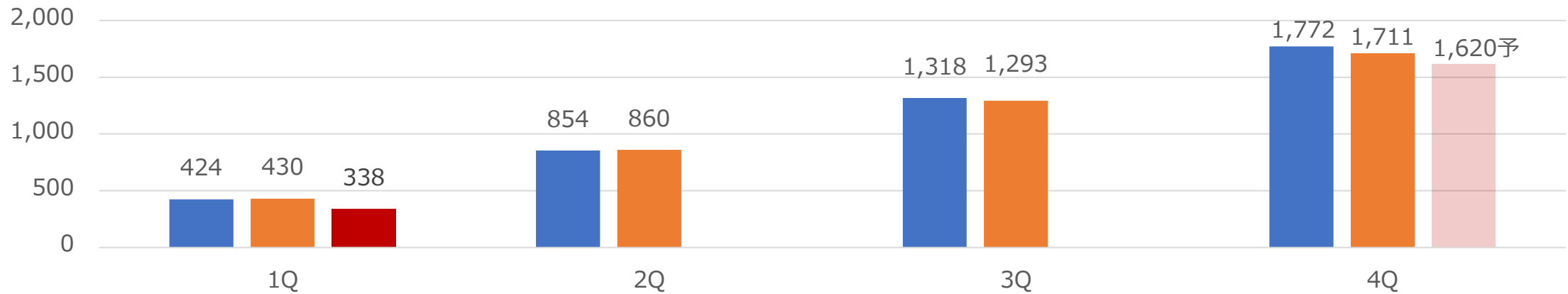
■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



(単位：億円)

累計売上高推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度

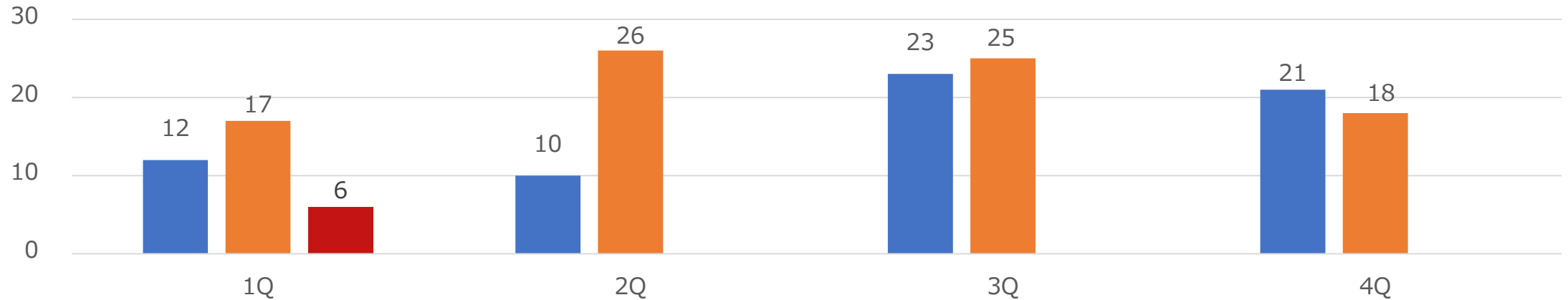


四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の営業利益推移

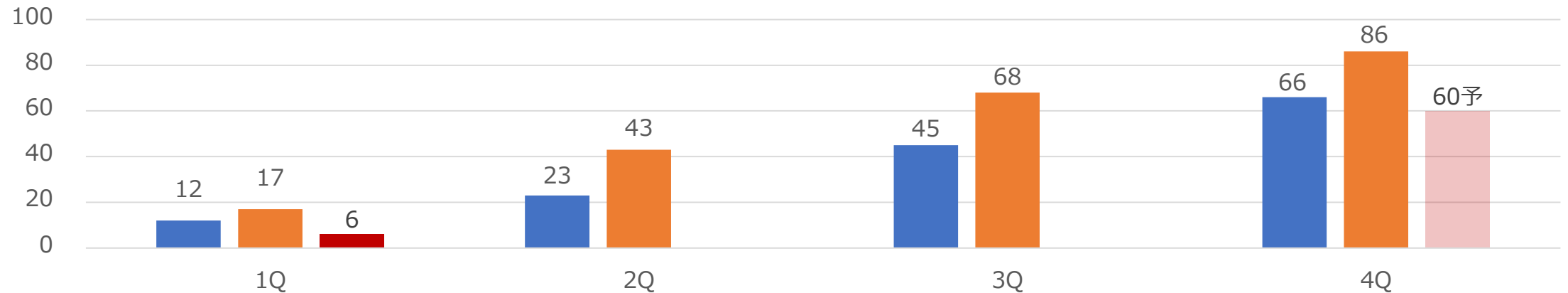
■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



(単位：億円)

累計営業利益推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



セグメント情報（前年同期比）

- ・ コロナ禍の影響を受け、各セグメントで減収・減益となった。2Qは持ち直しの傾向。

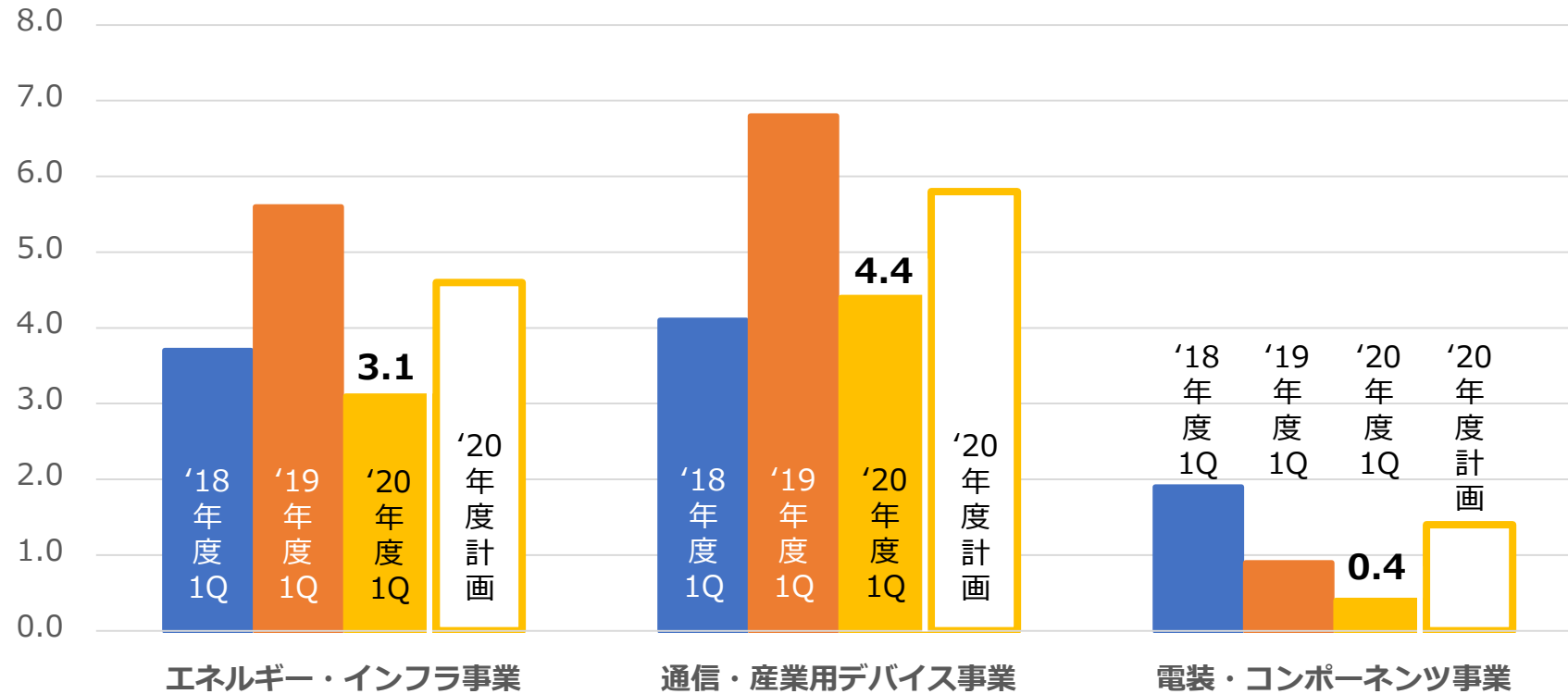
(単位：億円)

	2019年度 1Q 実績		2020年度 1Q 実績		増減	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益
エネルギー ・インフラ	211	12 (5.6%)	180	5 (3.1%)	△32	△6
通信・産業用 デバイス	76	5 (6.8%)	61	3 (4.4%)	△14	△2
電装・ コンポーネンツ	132	1 (0.9%)	87	0 (0.4%)	△44	△1
その他 (内新規事業)	11 (7)	△2 (△1)	10 (6)	△2 (△1)	△1	△1
合 計	430	17 (3.9%)	338	6 (1.8%)	△92	△10

セグメント情報（セグメント利益率推移）

- 当社は、継続的な構造改革の推進により、セグメント毎の収益力回復に向けた取り組みを進めております。

(セグメント利益率%)



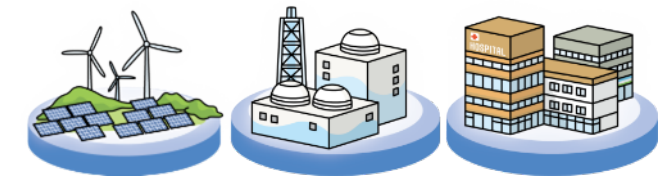
セグメント内 売上高構成

- セグメント内における売上高構成比率の推移

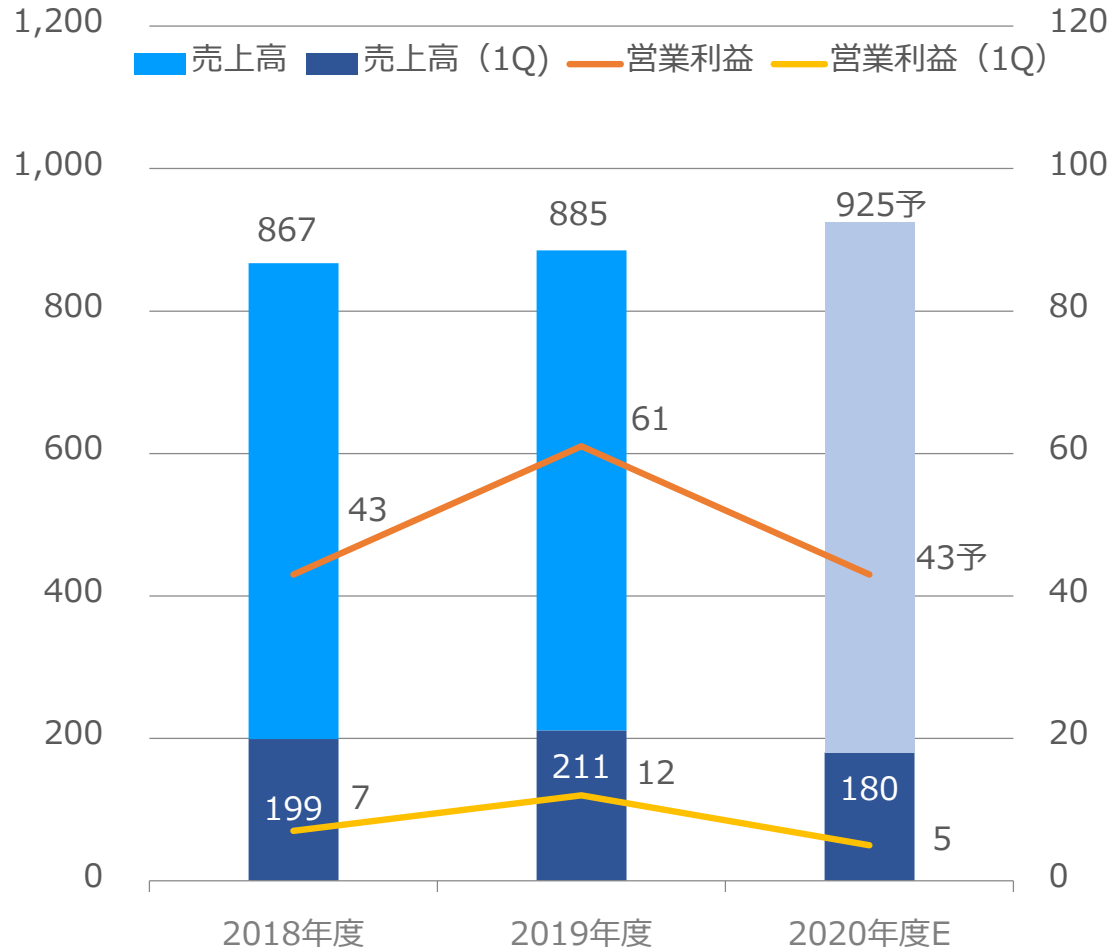
(億円)	2018年度 1Q 売上高 構成比%	2019年度 1Q 売上高 構成比%	2020年度 1Q 売上高 構成比%
エネルギー・インフラ事業	199	211	180
建設関連	57%	63%	62%
電力インフラ関連	31%	28%	27%
免震・その他	12%	9%	11%
通信・産業用デバイス事業	78	76	61
通信ケーブル	56%	55%	55%
ワイヤハーネス	29%	28%	28%
精密デバイス	15%	17%	17%
電装・コンポーネンツ事業	134	132	87
高機能製品	45%	52%	53%
一般汎用製品	55%	48%	47%
その他（含む新規事業）	50	11	10
合計	424	430	338

エネルギー・インフラ事業

実績&業績計画



(単位：億円)



※2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

第1四半期実績

<p>◆建設 電力ケーブル、電線、免震装置、制振・防振</p>	<p>コロナ禍による建設工事の延期のため受注が減少。</p>
<p>◆電力インフラ 電力ケーブル、工事、電力機器部(SICONEX®)</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピック開催予定期間の工事計画減少の影響で、一時的に案件が減少。</p>

通期見通し

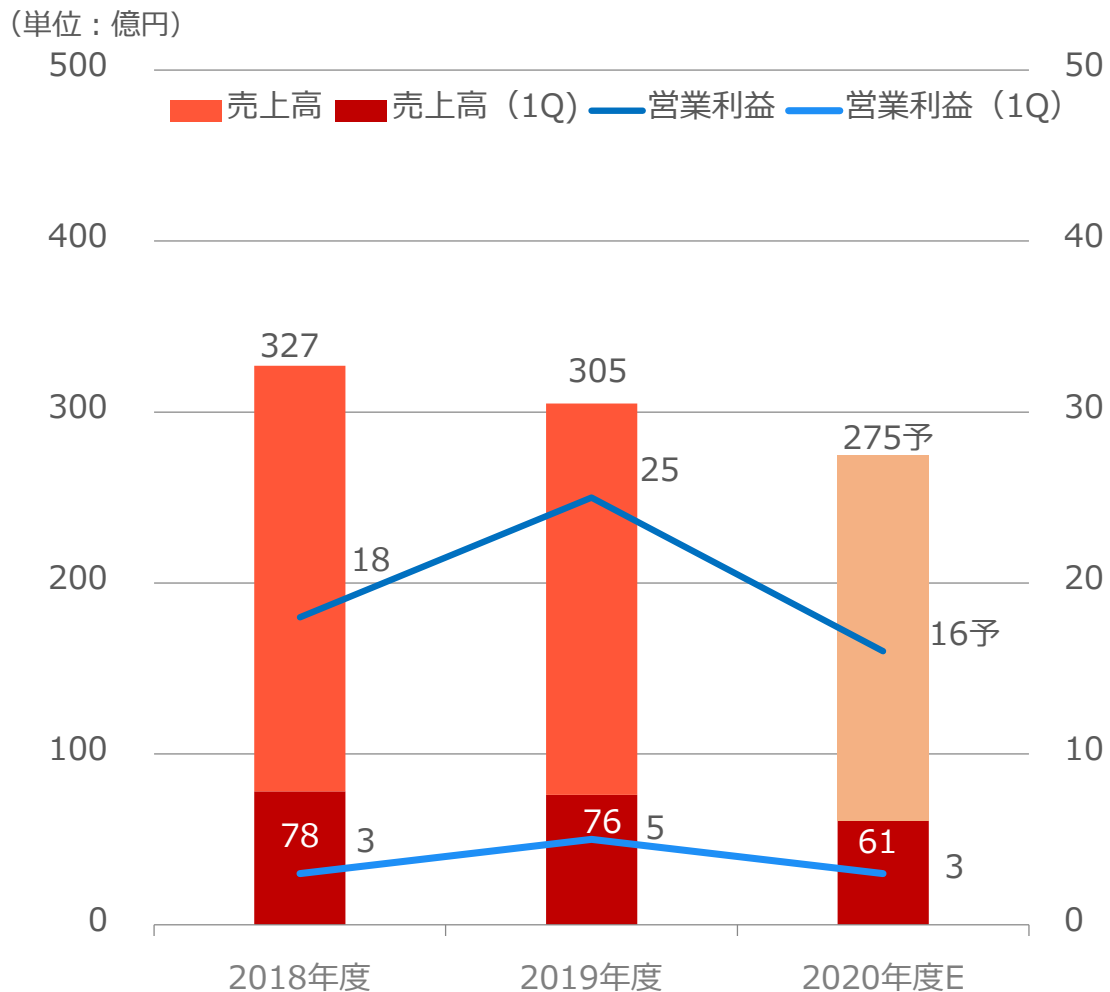
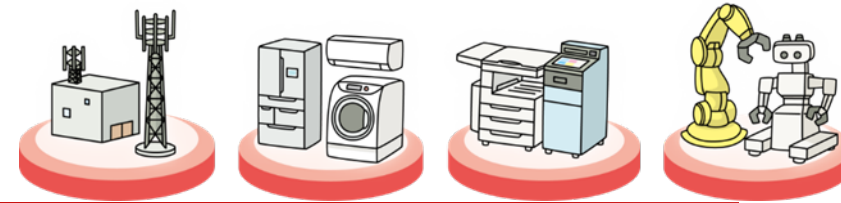
コロナ禍の影響で設備投資や住宅着工の需要は落ちるも、電力インフラ需要、倉庫やデータセンター需要も堅調で下期回復を想定。

売上高は925億円、営業利益は43億円を計画。

営業利益率：4.6%（前年度6.9%）

通信・産業用デバイス事業

実績&業績計画



※2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

第1四半期実績

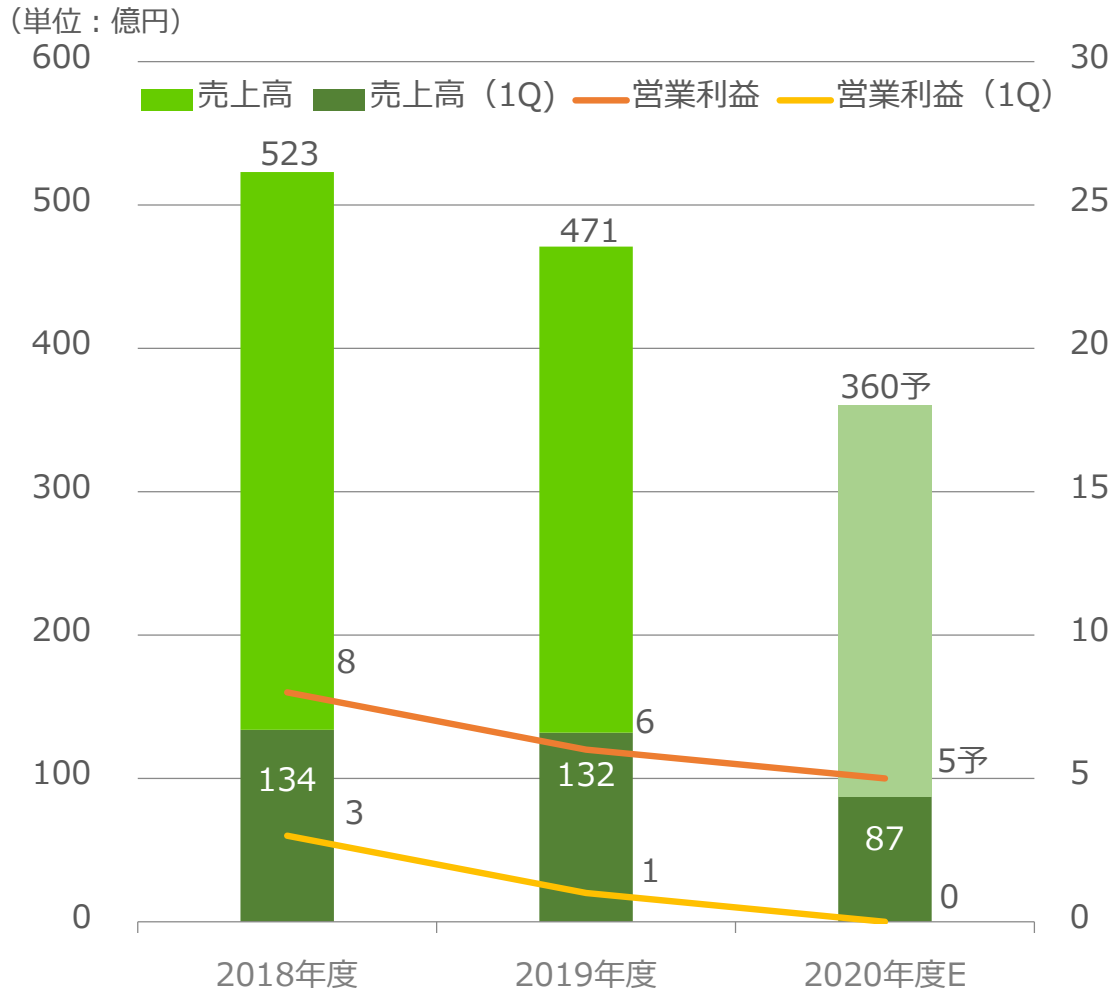
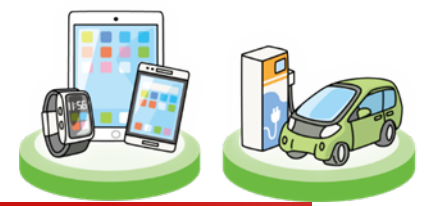
◆建設 メタルケーブル、光ケーブル	コロナ禍による建設工事の延期のため受注が減少。
◆通信インフラ LANケーブル、光ケーブル	国内5Gサービス向け需要は堅調。
◆家電・産業機器 ワイヤハーネス	世界的な新型コロナウイルス感染拡大による顧客工場の停止等の影響により受注が減少。
◆複写機 精密デバイス	

通期見通し

国内通信インフラ増強、GIGAスクール等活況。精密デバイスはコロナ禍によるサプライチェーンの変化に対応した構造改革を推進。

売上高275億円、営業利益16億円を計画。

営業利益率：5.8%（前年度8.2%）



第1四半期実績

◆自動車 無酸素銅(MiDIP®)、 銅合金、高機能巻線	コロナ禍により自動車メーカーが生産調整を実施したため需要が大きく減少。
◆電気機械 他 汎用巻線	コロナ禍により設備投資関連等の電気機械向け汎用巻線の需要が減少。

通期見通し

従来の汎用品から高付加価値品主体の事業へ変革を推進中。下期以降の市場回復と環境対応車率増加を見込み、無酸素銅 MiDIP®・銅合金線の戦略製品の拡販や車載用巻線増産により収益性の改善を目指す。

売上高は360億円、営業利益5億円を計画。

営業利益率：1.4%（前年度1.2%）

貸借対照表（前期末比較）

・自己資本比率は33.1%（前期末比0.8ポイントアップ）

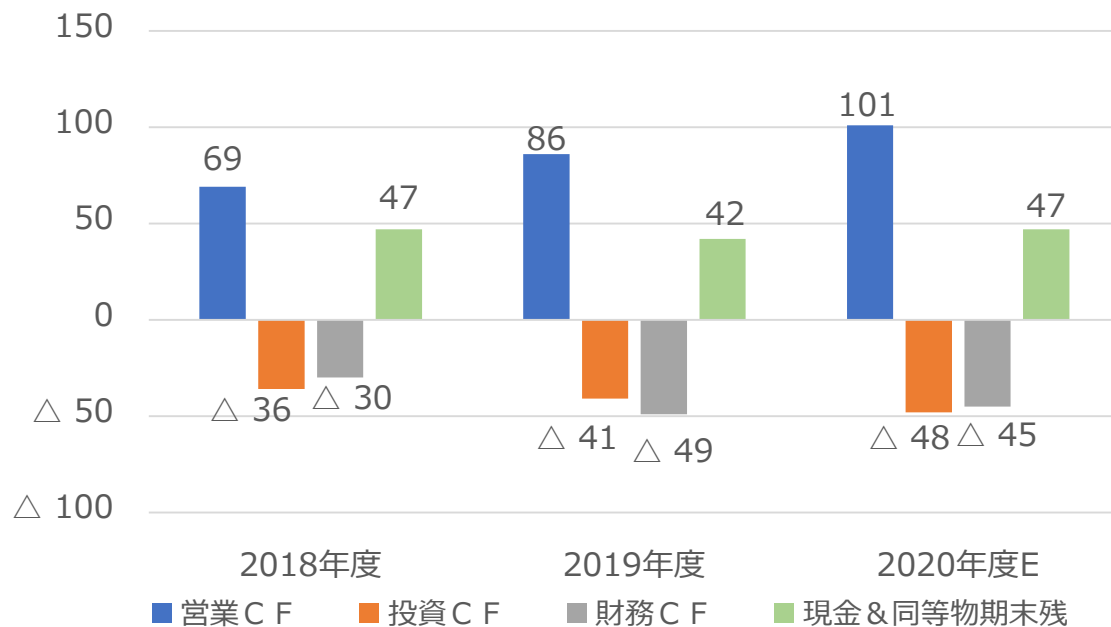
（単位：億円）

	20/3/31	20/6/30	増減
現金・預金	43	46	+3
受取手形・売掛金	412	372	△40
棚卸資産	217	221	+4
その他	45	48	+3
流動資産 計	717	687	△31
有形固定資産	399	399	△0
無形固定資産	14	14	△1
投資その他の資産	94	95	+1
固定資産 計	508	508	△0
資産 合計	1,225	1,194	△31

	20/3/31	20/6/30	増減
支払手形・買掛金	186	174	△12
短期借入金・社債	295	305	+9
その他	157	139	△18
流動負債 計	638	617	△21
長期借入金・社債	119	109	△10
その他	68	68	+0
固定負債 計	187	178	△9
負債 合計	825	795	△30
資本金	242	242	0
資本剰余金	57	57	+0
利益剰余金	62	62	△0
その他	38	39	+0
純資産 合計	400	400	△0
負債・純資産 合計	1,225	1,194	△31

キャッシュフロー計画と投資方針

連結キャッシュフロー (単位：億円)



■キャッシュフロー(CF) 計画

営業CF：減益予想も運転資金減もあり、2019年度を上回る見込。

投資CF：前年度を上回る設備投資を実施。

財務CF：引き続き有利子負債の返済による財務体質の改善を目指す。

■投資方針

2020年度の設備投資は、中期経営計画の施策を着実に進める。

- ・国内生産体制の強靱化投資
- ・新製品開発と合理化、省力化投資
- ・ワイヤハーネスを中心とした海外拠点拡大投資

(億円)	2018年度実績	2019年度実績	2020年度計画
投資	35	53	49
減価償却費	30	31	38

新型コロナウイルスによる影響

- ・ 2Qから徐々に持ち直し、下期より回復基調に向かうと想定。

	市場環境（下期）		施策対応
エネルギー ・インフラ	建設		<ul style="list-style-type: none"> ・ 需要変動への生産体制対応 ・ 再生可能エネルギーの系統連系ビジネスモデルの強化
	電力インフラ		
	免震・その他		
通信・産業用 デバイス	通信ケーブル		<ul style="list-style-type: none"> ・ 5G立上がり、GIGAスクール構想等の需要捕捉 ・ 新たなサプライチェーンと地産地消(中国、東南アジア)への構造改革
	ワイヤハーネス		
	精密デバイス(複写機用)		
電装・ コンポーネンツ	高機能製品(自動車等)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車産業の構造変化、環境配慮型自動車割合増加に向けて生産体制を增強
	一般汎用製品		
その他 (内新規事業)	IoTソリューション		<ul style="list-style-type: none"> ・ テレワーク対応システム商材増強 ・ 遠隔医療やスマートワーク化の加速によるメディカル向け部材、システム・サービスの需要増加に対応した拡販強化
	インダストリ(医療等)		

2021/3期 通期業績予想

- ・ 5月15日公表の通期業績予想を据え置く。

(単位：億円)	2019年度 実績	構成 %	2020年度 計画	構成 %
売上高	1,711	—	1,620	—
売上総利益	237	13.9%	—	—
営業利益	86	5.0%	60	3.7%
経常利益	79	4.6%	55	3.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	55	3.2%	40	2.5%

SWCCグループ

2021/3期の取り組み



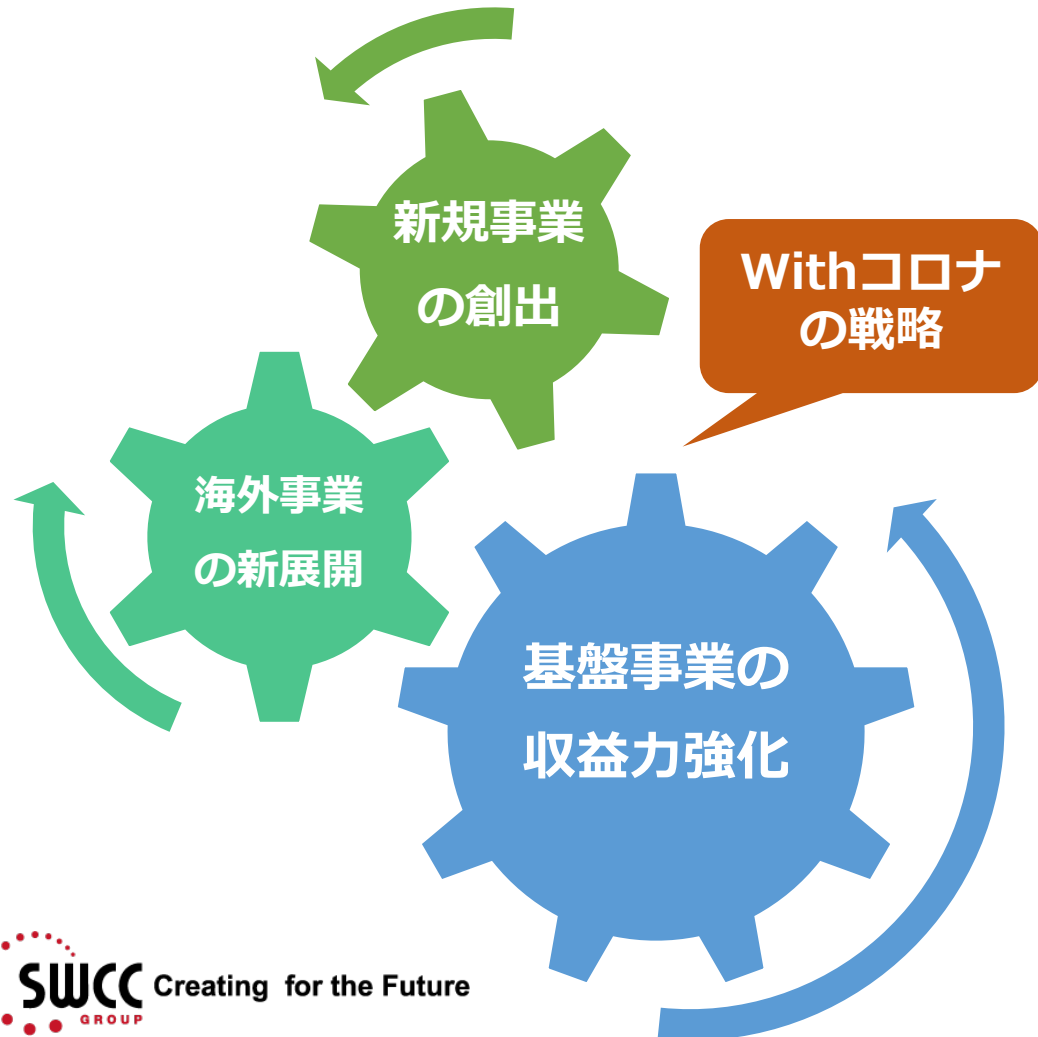
Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

<https://www.swcc.co.jp>

中期経営計画施策の進捗(2018-2019年度)

～インフラを支え、社会の持続的発展に
貢献する企業であり続ける～



- 注力分野の決定
- テレワーク等のニューノーマル向けIoTソリューション開発
- 医療分野の製品群の拡大、ディスプレイ分野参入

- ワイヤハーネスの中国、ベトナム工場への生産移転、拡張準備
- 複写機部品のベトナム工場への生産移転、国内開発体制強化
- 中国銅事業の生産効率改善、生産量拡大
- 海外電力機器部品事業の事業拡大

- 電力インフラのビジネスモデル強化、ラインナップ拡大
- 建設向け汎用電線合併会社設立によるシェアアップ
- ROIC経営導入
- 生産性向上のための拠点再配置方針決定
- ゴム線事業の売却、複写機部品事業移転決定、海老名工場売却
- 5Gサービス拡大に向けた通信ケーブルの生産強化
- 国内巻線製造会社を昭和電線ユニマックに統合

セグメント毎の今後の施策

エネルギー・インフラ事業

- ・ 電力インフラのビジネスモデル
- ・ 電力市場トレンドと当社SICONEX®シェアの成長

電力インフラ事業の
シェア拡大

通信・産業用デバイス事業

- ・ 通信インフラ増強整備への対応

通信インフラ需要の
取り込み

電装・コンポーネンツ事業

- ・ 電装・コンポーネンツ事業の戦略製品
- ・ 無酸素銅MiDIP®の増産への取り組み
- ・ 合金事業の製品開発

戦略製品の強化と
事業改革の推進

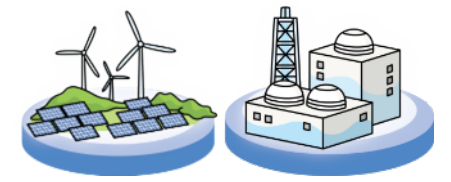
新規事業

- ・ 医療ロボット市場の成長と当社製品
- ・ 新規事業（ヘルスケア分野）

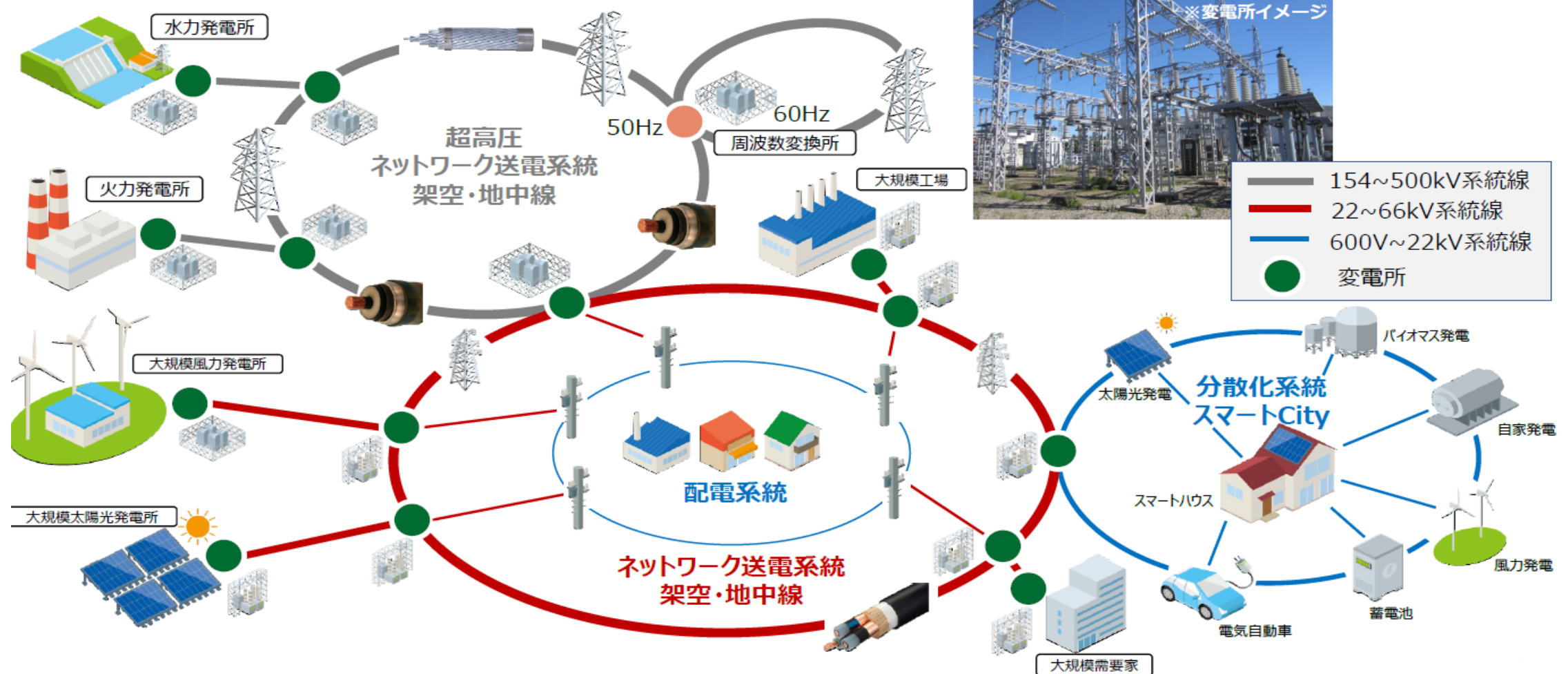
ヘルスケア分野の拡大

電力インフラのビジネスモデル

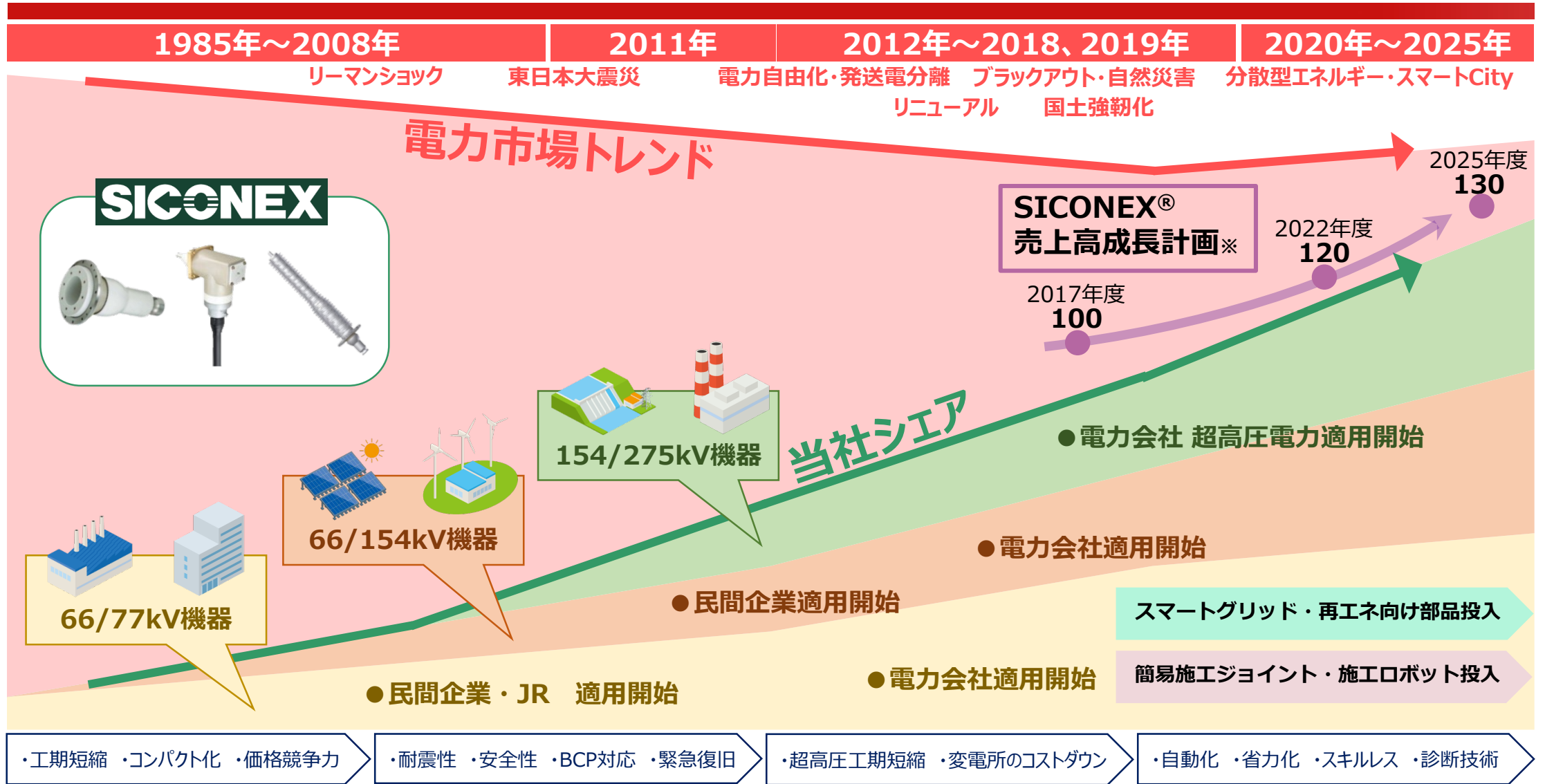
継続



- 従来の超高圧ケーブルの長さを必要とするビジネスから、当社独自製品のSICONEX®を活用した変電所やスマートシティ等の系統連携のためのケーブル・部材・工事を短期間で納入するモデルへ転換



電力市場トレンドと当社 **SICONEX** シェアの成長



通信インフラ増強整備への対応

強化

■ 総務省：ICTインフラ地域展開マスタープラン

Society5.0を支える5G等によるICTインフラ整備支援策と5G利活用促進策を総合的に実施

■ 文部科学省：GIGAスクール構想

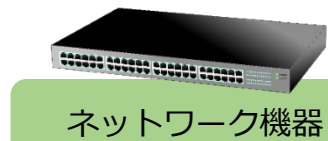
児童生徒向け学習用端末の1人1台使用と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する構想

■ 遠隔医療の普及に向けた増強

オンライン診断、リモート医療などの普及に向けたIT環境整備の実施

LANケーブルの増産
2022年度までに40%の増産計画
(2017年度対比)

With コロナ
新たな生活様式への通信ネットワーク整備に貢献



高速・大容量無線局の前提となる伝送路

無線局
エントランス
(クロージャ等)

地域の拠点地点

観光IoT

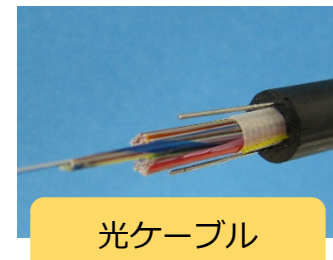
教育IoT

コワーキング
スペース

スマートモビリティ

スマートホーム

農業IoT



電装・コンポーネンツ事業の戦略製品

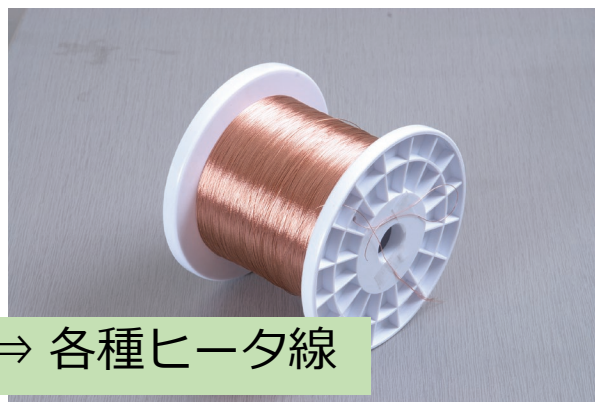
強化

電装・コンポーネンツ事業

無酸素銅MiDIP®、銅銀合金

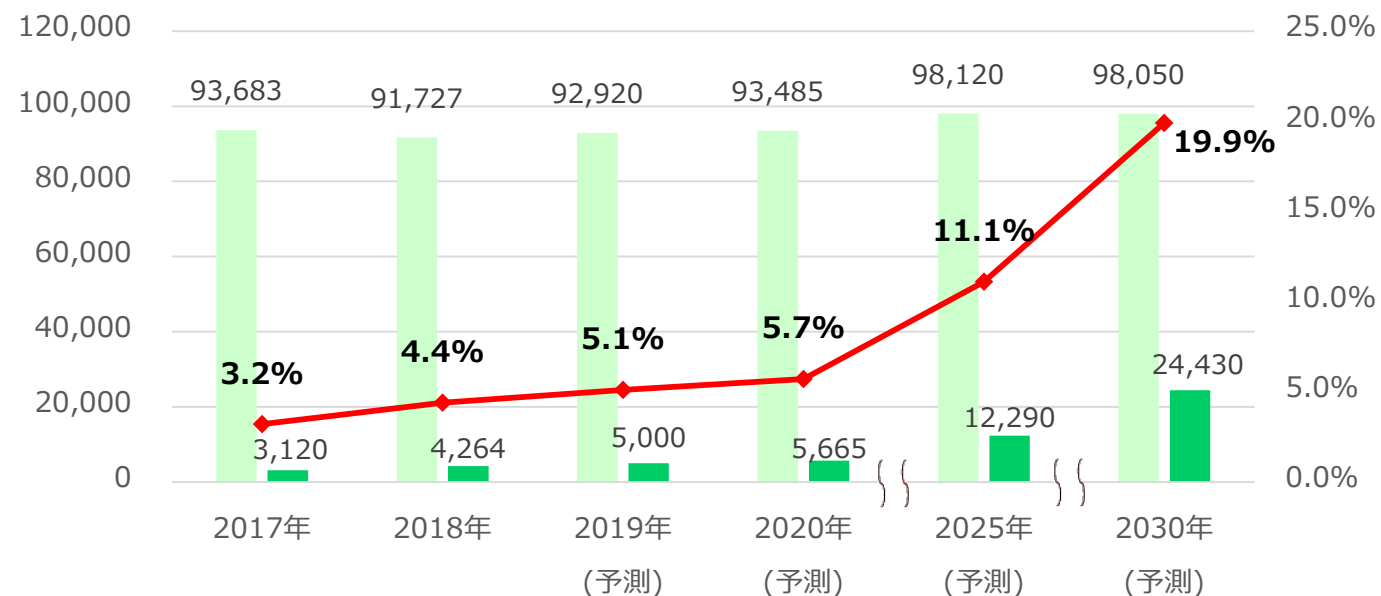


無酸素銅MiDIP® ⇒ モーター用巻線



銅合金 ⇒ 各種ヒータ線

パワートレイン別世界自動車新車販売台数推移



■ 内燃機関車(ICE) ■ 次世代車(xEV) ◆ 世界自動車新車販売台数に対する次世代車(xEV)構成比

- 注1.乗用車および車両重量3.5t以下の小型商用車における新車販売台数ベース
- 注2.本調査における次世代車(xEV)とは、ストロングハイブリッド(PHEV)、電気自動車(EV)、燃料電池車(FCV)を対象とする。なお、アイドルストップ車やトルクアシストのみを行うマイルドハイブリッド(M-HEV)は対象外とする。また、バス・トラックや1人乗りEVなどの超小型車を除く。
- 注3.各国工業会データ等をもとにした矢野経済研究所推計値
- 注4.2019年以降予測値

出所：(株)矢野経済研究所
「次世代車(xEV)用キーデバイス/コンポーネンツ世界市場に関する調査(2019年)」2019年12月10日発表

無酸素銅MiDIP®の増産への取り組み

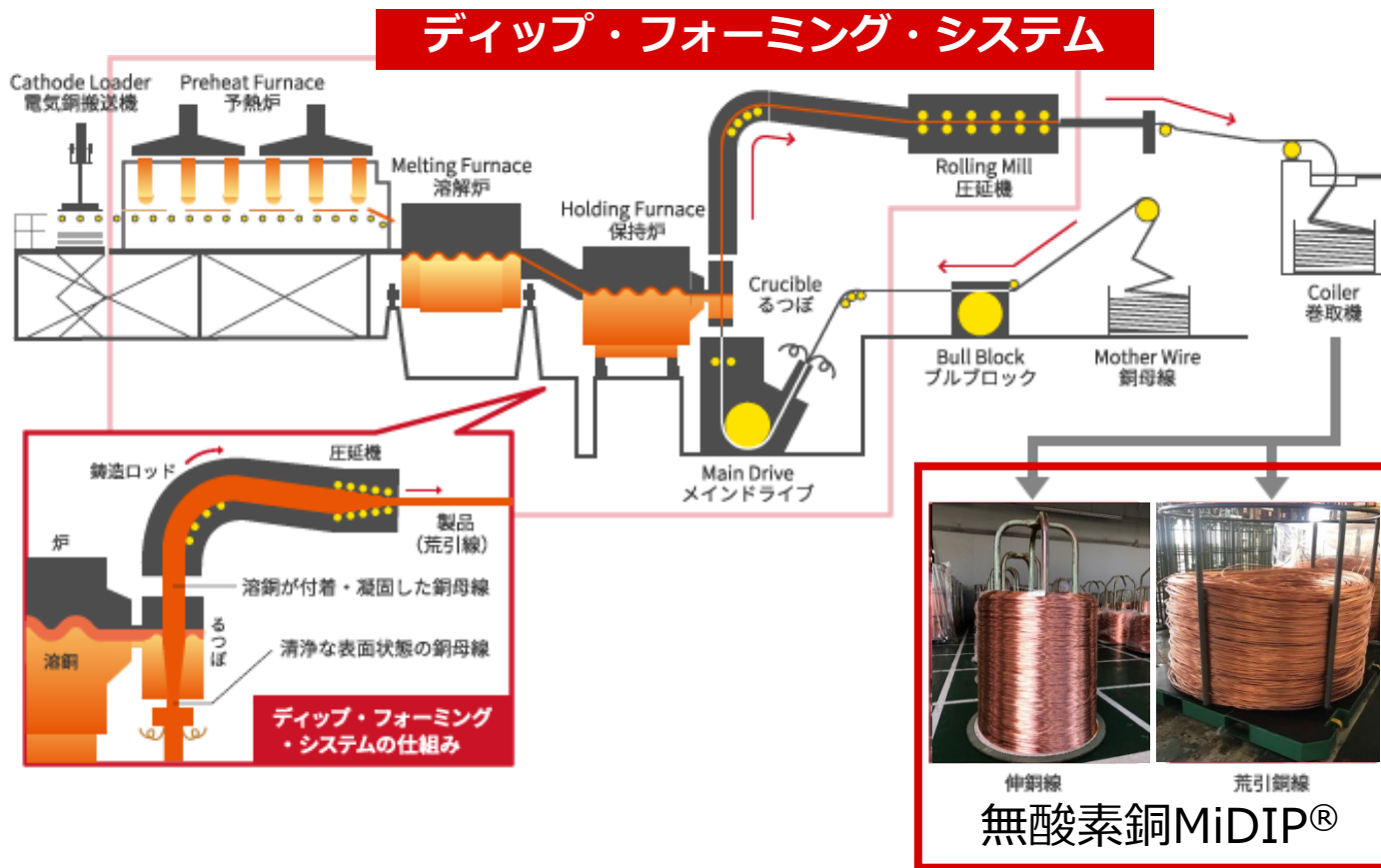
強化

無酸素銅の特徴は酸素量の低さ
しかし、**連続的な酸素量の測定**は困難

酸素濃度を連続的に把握する技術を開発
(世界初)

2020年9月2日 プレスリリース

流動溶融銅中に含まれる極微量酸素の
長時間連続測定が可能に



無酸素銅MiDIP®のさらなる安定生産と供給量増加へ

合金事業の製品開発

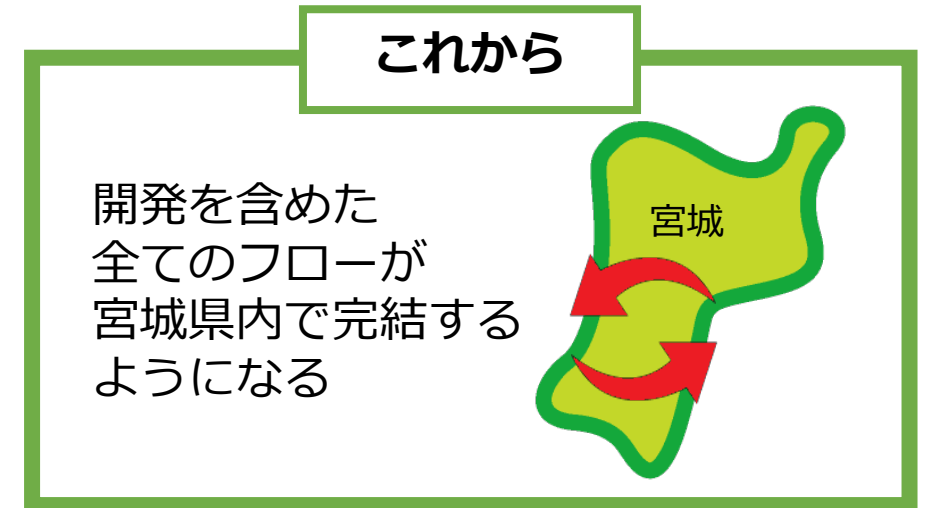
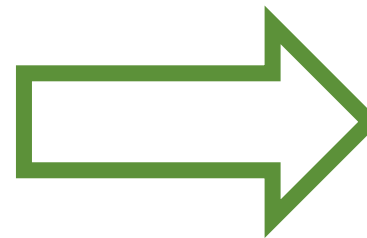
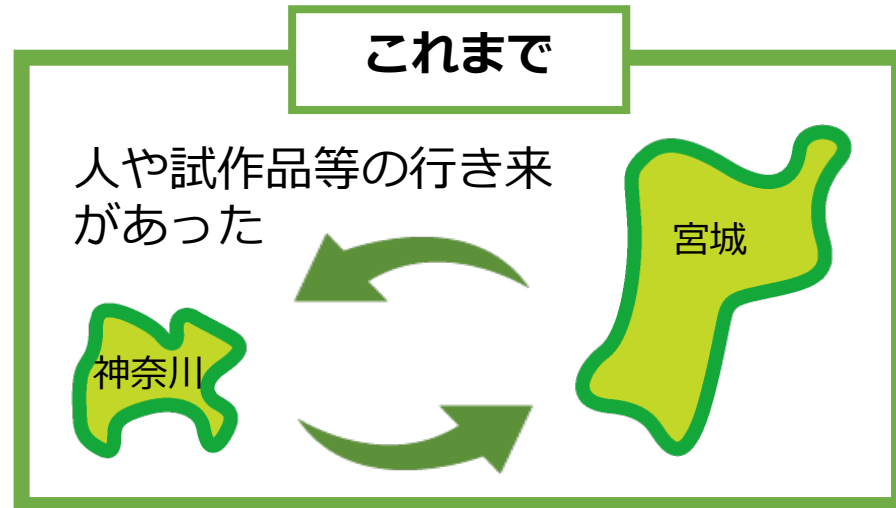
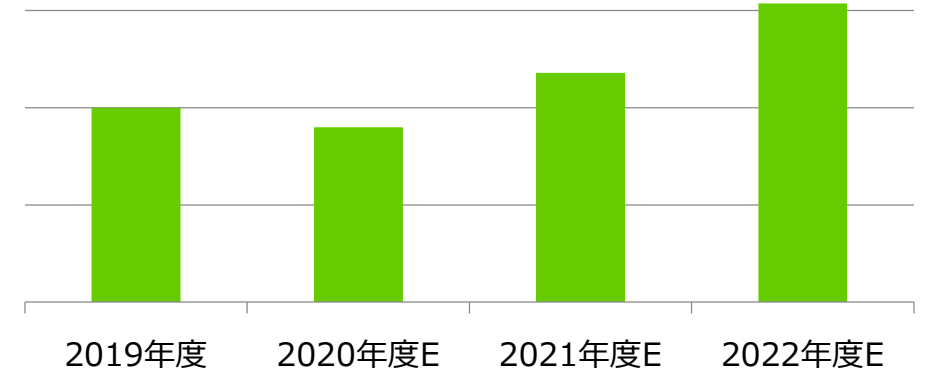
強化

8月7日、これまで昭和電線ケーブルシステムの相模原事業所(神奈川県)にあった金属材料開発部門を仙台事業所(宮城県)へ移転することを発表。

開発・製造・品質保証の拠点集約により、新製品開発や製品化までのプロセスを短期化。ヒータ線や半導体向け製品をはじめとする銅合金事業の加速と拡大を図る。

ヒータ線事業 売上金額比率 (%)

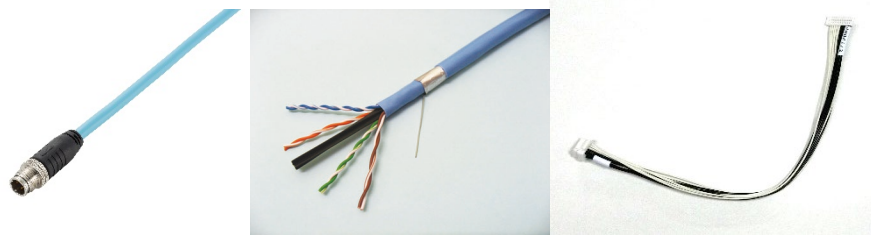
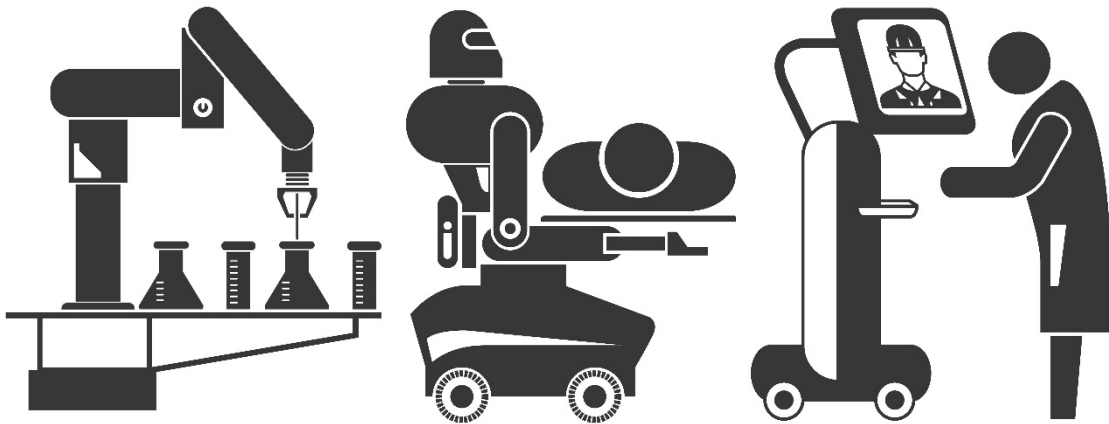
※2019年度実績を100%として比較。



医療ロボット市場の成長と当社製品

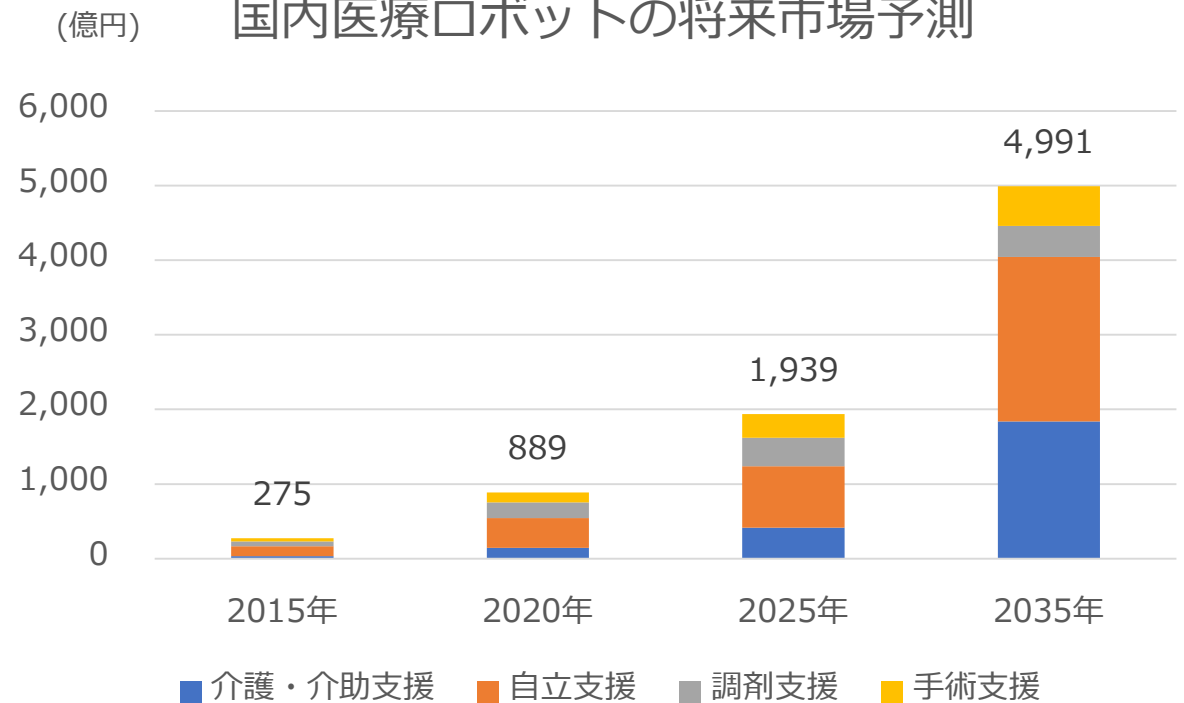
新規事業

給電ケーブル、通信ケーブル
ワイヤハーネス



2019年度ヘルスケア分野
売上高 約20億円

国内医療ロボットの将来市場予測

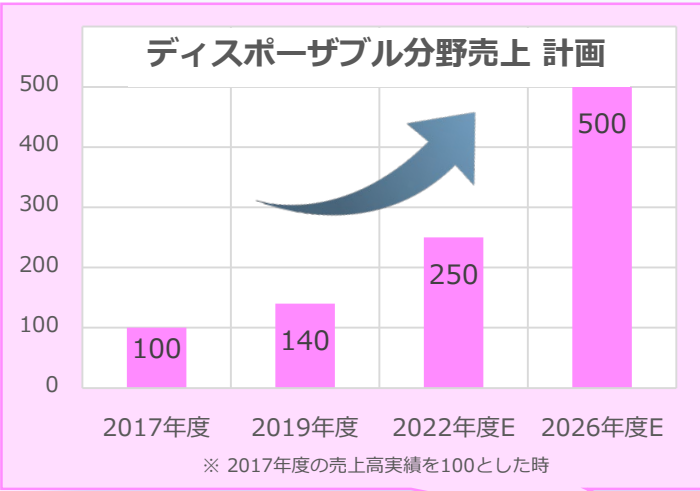


出所：新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）ニュースリリース（2010年4月23日）
「ロボットの将来市場予測を公表」より作成

新規事業 (ヘルスケア分野)

強化

次世代ヘルスケアの実現に貢献

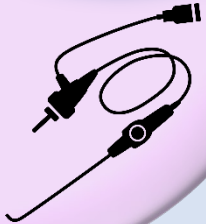


ディスポーザブル分野

高機能・低侵襲性で
患者の負担軽減

カテーテル

内視鏡



医療IT分野

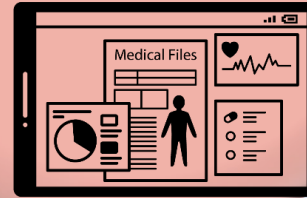
オンライン診療や遠隔医療
を支える

医用映像

認証
ネットワーク

システム

電子カルテ
システム



病院インフラ分野

安心・安全な空間を構築

通信ネットワーク
構築

電力インフラ
整備

免振・防振



医療機器分野

多様な配線部材を提供

ロボット

画像診断装置



昭和電線グループのコア技術

金属材料
技術

有機材料
技術

光材料
技術

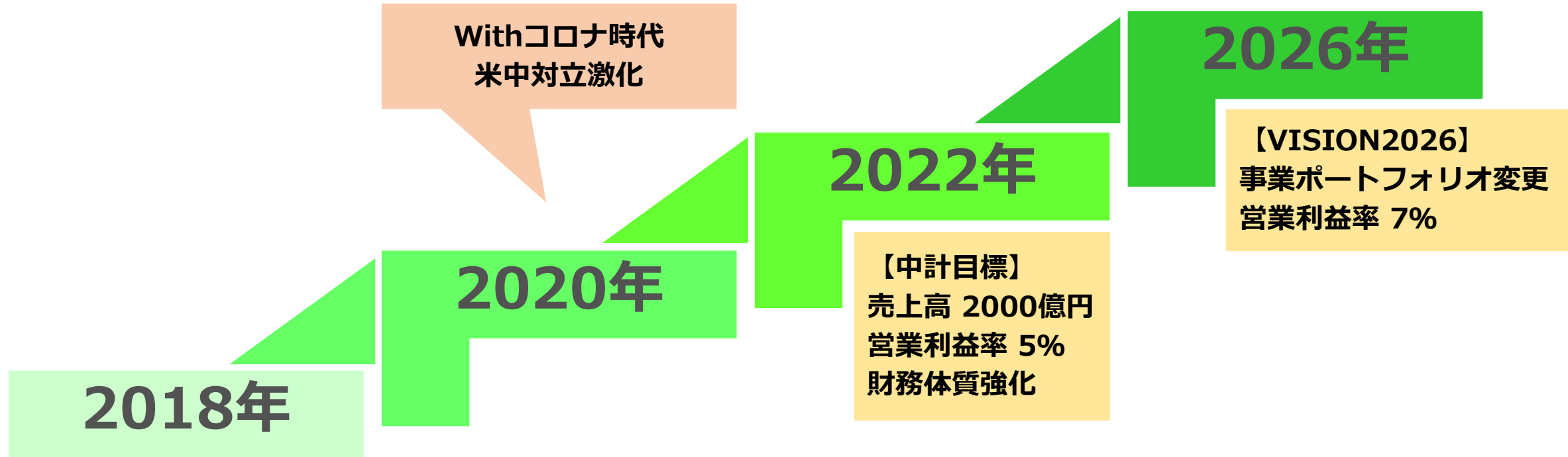
金属加工
技術

撚り技術

編組技術

押出技術

ビジョン2026に向けてのマイルストーン



- ガバナンス改革、構造改革
- セグメント体制変更
- 基盤事業改革方針検討
- 拠点再配置基本施策検討
- ESG長期方針策定

- 基盤事業改革実施
- 拠点再配置実施
- スマート工場への挑戦
- 電装・コンポーネンツ事業 事業計画再検討
 - 電装・コンポーネンツ事業 本格再生

- 海外事業拡大
- 再生事業改革方針決定
- 海外収益拡大
- 再生事業改革実施、事業拡大

SWCCグループ

中期経営計画KPI

<Appendix>

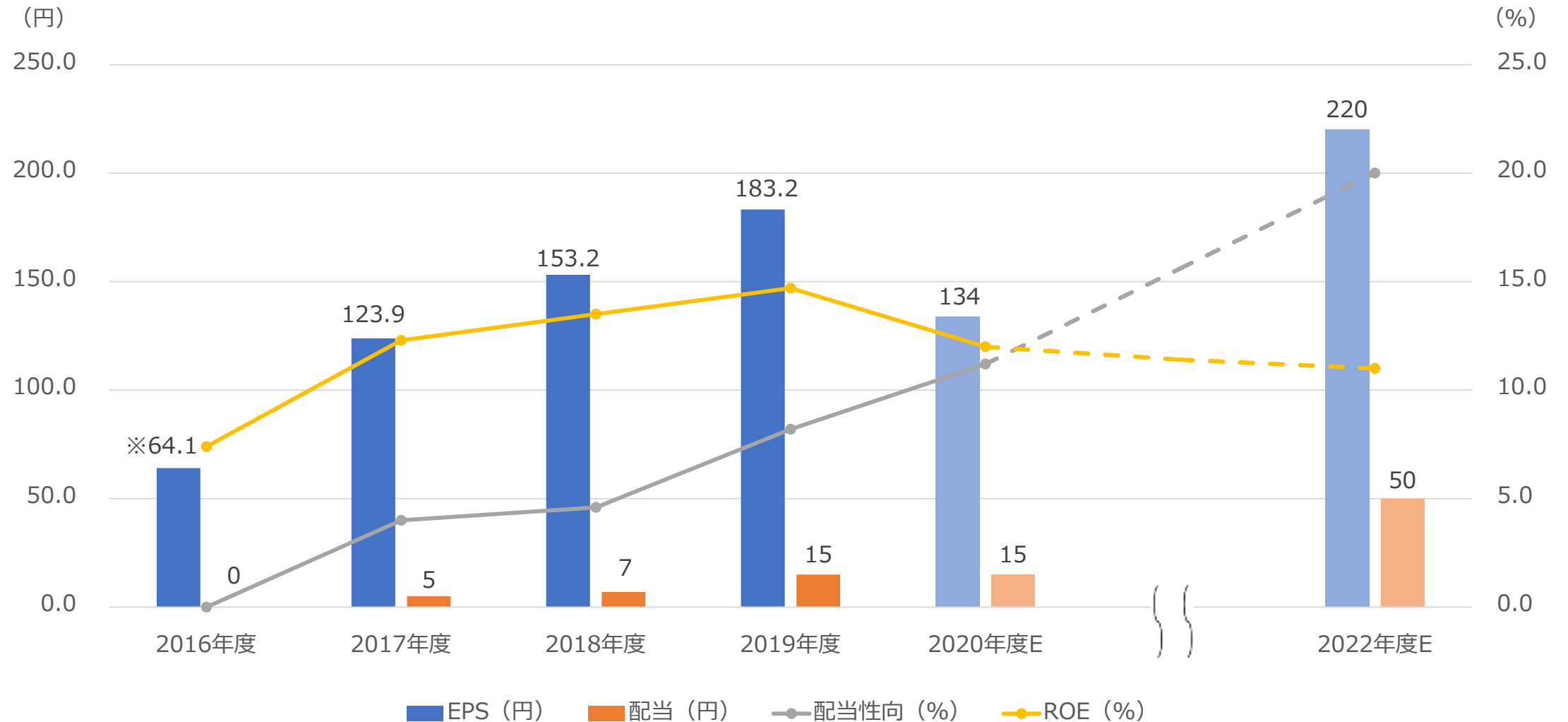


Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

<https://www.swcc.co.jp>

株主還元（配当政策） & ROE 計画



※株式併合を実施しており、グラフは併合後の数値で作成。

中期経営計画 数値目標 (KPI)

(単位：億円)	2019年度 実績	2020年度 計画	2022年度 中期経営計画	VISION 2026
売上高	1,711	1,620	2,000	2,100
営業利益	86	60	100	150
経常利益	78	55	95	150
親会社株主に帰属する 当期純利益	54	40	66	100
営業利益率	5.0%	3.7%	5%以上	7%以上
配当/配当性向	15円 (8.2%)	15円 (11.2%)	50円以上 (約20%)	120円以上 (約35%)
有利子負債	423	385	380以下	300以下
DEレシオ※	107%	90%	70%以下	40%以下
純資産	400	435	550以上	800以上
自己資本比率	32.3%	35%	38%以上	50%以上
ROE	14.7%	9.7%	10%以上	10%以上
ROIC	7.3%	5.1%	7%以上	9%以上

※DEレシオは自己資本で算出

SWCC VISION2026

～インフラを支え、社会の持続的発展に
貢献する企業であり続ける～

中期経営計画 「Change SWCC2022」 2022年度業績目標

売上高 **2,000億円**
営業利益 **100億円**
営業利益率 **5%以上**
ROE **10%以上**





Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。